http://f-env.sakura.ne.jp

☆題字の樹木イラストは、環境の三大要素「水・緑・大気」をイメージ

府中かんきょう市民の会

NPO法人　府中かんきょう市民の会会報
2022年 春号　4月13日(水)発行 通巻84号
発行人　小西 信生（府中市四谷6-19-20）
TEL 080-5646-5524
編集人　葛西 利武
（府中市市民活動センタープラッツ登録団体）

「エイジレス顕彰」を受けて

「東京のあすを創る協会」との関わり

はじめに

当会会報（新年号／通巻83号）に、国の内閣府から「エイジレス顕彰(社会参加活動事例部門)」を受賞した記事が掲載されました。

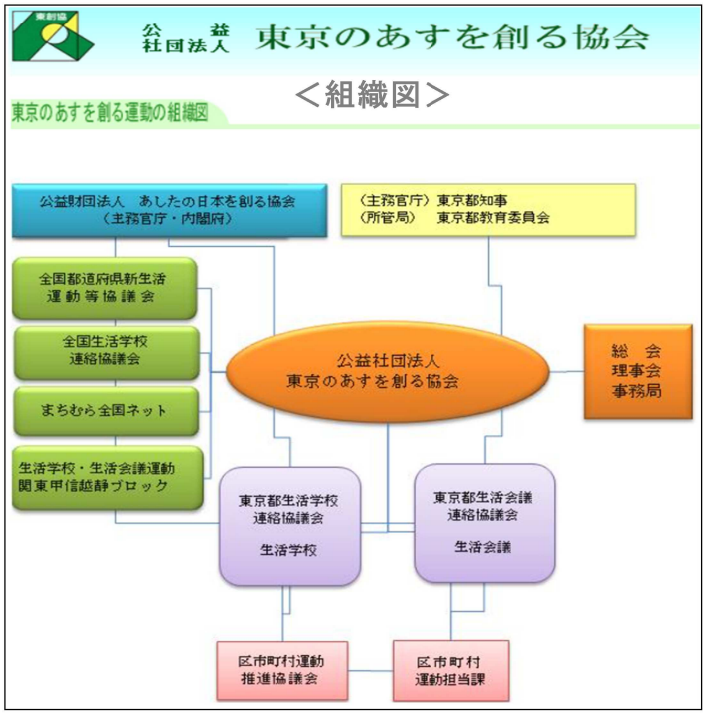
この記事中で、「東京のあすを創る協会(以後、東創協)」の推薦により受賞できたとの記載がありましたが、そもそも東創協とはどういう協会で、当会との関係はどのようなものなのか、また、どのような理由で当会を推薦してくれたのか気になるところです。

五小の環境学習会樹木班で、児童に樹木のことを教えている筆者（中央）
＝2021年10月14日撮影

東 創 協 と は

今号(春号／通巻84号)では、その点を中心に解説したいと思います。

東創協とは、昭和32（1957）年に都内の民間23団体で東京都新生活運動協議会が結成され、昭和36年に法人化し、社団法人東京都新生活運動協会となりました。その後、協会内に、昭和53年に東京都生活学校連絡協議会を発足し、さらに、平成2(1990）年には東京都生活会議連絡協議会が発足しました。



平成11年には、名称を「社団法人 東京のあすを創る協会」と変更しました。東創協は、東京都の外郭団体ですが、内閣府の外郭団体である「財団法人 あしたの日本を創る協会(以後、日創協)」の下部組織となっています。従って、全国の各道府県毎に東創協と同じ外郭団体が存在しています(※㊧㊦、東創協の組織図参照)。

東創協、加入の経緯は

当会が東創協に加入した切っ掛けは、当会の元会員であった野口道夫さんが東創協の役員であった来栖明美さん(府中市在住)と面識があり、来栖さんからのお誘いで協会に加入したものです。加入すると活動費として初年度と2年目には3万円、3年目以降も2万円支給されるとのこと事であり、当時活動資金に困っていた事もあり、加入したものです。

入会手続きも複雑で、活動費が都の税金で賄われているためか自治体(市の教育委員会生涯学習課)の推薦が必要でした。さらに、東創協から上部団体である「日創協」に申請し、活動内容等を審査して東創協の生活会議に入会が許可されました。

当会、推薦の理由は

東創協がこの度「エイジレス顕彰」に、どのような理由で当会を推薦してくれたのか、探って見ました。

先ず1点目は、東創協に加入したのが平成18年4月で加入期間は令和3（2021）年で15年目となり、平成29年には10年以上の加入実績があり、東創協から感謝状が授与されました。そのことは、会報2018年夏号／通巻69号に掲載されました。

2点目は、当会が10周年と20周年に作成した「記念誌」を東創協に贈呈しており、当会の活動内容が認知されていたと思われます。

㊧感謝状を授与される柿本 正夫氏
㊦感謝状
上記2枚の写真は、通巻69号の5面から抜粋。柿本氏は当時、副理事長兼事務局長。会場は東京都庁大会議室

3点目は、小西理事長から東創協に提出された応募内容が「エイジレス顕彰」の応募基準を満たし、活動内容等も明確に記載した結果だと思います。そもそも理事長からの応募がなければ実現しなかった事案です。

相談役（前理事長）　竹内 章

府中市立第五小学校
3学年

環境学習（野鳥観察）

令和4年1月17日(月)、18日(火)3年生4クラスが1～2校時、3～4校時を使って環境学習の一環として、西府崖線を歩き野鳥観察会を行いました。各クラス、前もって学習していたメモを片手に、スタートです。会員参加者は6人。

まず、北門近くの下水道の蓋に、府中市の代表の鳥ヒバリが描かれているのを確認し崖線へ、天候は快晴。

♪市の鳥　ヒバリ
武蔵野の野原や畑に生息し、春には青空高く舞い上がって、美しい声でさえずる。府中の春の風物詩としても市民に親しまれている

さあー、目と耳を澄ませて探そう！

落ち葉に埋め尽くされた斜面の崖線には鳥たちの大好きな木の実が豊富です。冬鳥たちもやってきています。

さあ、目と耳を澄ませて探そう。すぐにケヤキの天辺の2羽のシジュウカラを見つけました。ギィー、ギィーとコゲラの声もします、「なんだ？」「縞々だよ～」「初めて見たー」「コゲラだよ、木をつついて虫を取っているんだよ～」と、野鳥に詳しい児童も数人います。頼もしい限りです。

府中市で唯一湧き水が沸いている所を通りかかると、どうして湧水は暖かい（16℃～17℃）のだろうと考えていました。湧き水のすぐ上のケヤキの木にハシブトガラスの巣がありました。木の枝で組み立てられていますがハンガーも数本使われています。見上げながら「上手く作っているな～」と感心している児童も。

用水に出ると、カルガモが3羽のんびりと休んでいましたが児童たちの声に移動しだしました。「アッ、足が黄色い！」とビックリしている様子です。落ち葉を散らかしながら木の実を探しているツグミにも会いました。「面白いね～」と暫く足が止まっていました。

写真は設楽撮影

湧水に触れて16℃～17℃の温度を確かめる　㊧倉町さん

シジュウカラ用巣箱の説明と鈴木先生のお話をしている田中さん(中央)

2022年3月21日 田中香代子 撮影

当会設置の巣箱で子育てするシジュウカラ

鈴木先生のこと

最後にこの崖線に6個取り付けているシジュウカラ用の巣箱並び昨年から注目されている鈴木先生（京大）※のシジュウカラ語について少し話をし、終了となりました。

「楽しかったよ～有難うございました」と児童たちは各教室へ。共に歩いた我々も少々疲れ気味でしたが「面白かったよ～有難う～」。

＜当日確認された野鳥＞

カルガモ、キジバト、モズ、ハシブトガラス、シジュウカラ
ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ
ハクセキレイ、外来種カワラバト　12種＋外来種1

（田中香代子）

※＜編集人のつぶやき＞

本文中にある「鈴木先生（京大）のシジュウカラ語」の補足説明です。

動物行動学者の鈴木俊貴さん（37歳）は京都大学白眉センター特定助教で、シジュウカラ語の言語を研究されています。シジュウカラの鳴き声にある法則を発見し、「動物言語学」という新たな研究分野を構築しようとしています。

巣箱で子育て中のメスが「チリリリリ（おなかがすいたよ）」と鳴くと、オスは「ツピー（そばにいるよ）」と答えて食べ物を持ってきます。また、天敵をさす言葉は「ヒーヒーヒー（タカ）」、「ピーツピ（カラス）」、「ジャージャー（ヘビ）」と使い分けます。これらは、それぞれを示す「単語」であると考えられます。

また、文章（作文）能力も確認されております。「ピーツピ（警戒しろ）・ヂヂヂヂ（集まれ）」は「警戒しながら集まれ」という意味です。しかし、これを逆に「ヂヂヂヂ・ピーツピ」としますと警戒することも、集まることもなかったそうです。

動物の鳴き声は単なる感情の表れにすぎず、言語とは違うものと長年信じられてきましたが、鳥類の鳴き声を研究していくと、言語に通じる能力が見つかるかもしれませんね。

会員募集中

一緒に活動しませんか。連絡は小西信生まで。
TEL 080-5646-5524

カラー図版（再改訂版）「ハケって、なに？」

（表面）

2022年3月1日発行　A3判三つ折り両面印刷

環境政策課との協働で「ハケって、なに？」再改訂版を発行。興味のある方は、環境政策課にお問い合わせください。

（中面）

2021年度 西府崖線生態系（野鳥）調査結果

野鳥等市民ボランティア調査活動も毎年行なっており、市発行「府中の環境」冊子に掲載されます。

科名		種名	2021 年 2 月 7 日 am			2022 年 1 月 15 日 am		
			直視認	鳴き声のみ	計	直視認	鳴き声のみ	計
1.	カモ科	① カルガモ				○		○
2.	ハト科	② キジバト	○		○	○		○
3.	タカ科	③ トビ				○		○
4.	キツツキ科	④ コゲラ	○		○			
5.	モズ科	⑤ モズ				○		○
6.	カラス科	⑥ オナガ	○		○	○		○
		⑦ ハシボソガラス	○		○	○		○
		⑧ ハシブトガラス	○		○	○		○
7.	シジュウカラ科	⑨ シジュウカラ	○		○	○		○
8.	ヒヨドリ科	⑩ ヒヨドリ	○		○	○		○
9.	ウグイス科	⑪ ウグイス		○	○			
10.	メジロ科	⑫ メジロ	○		○	○		○
11.	ムクドリ科	⑬ ムクドリ				○		○
12.	ヒタキ科	⑭ シロハラ	○		○			
		⑮ ツグミ				○		○
		⑯ ジョウビタキ				○		○
13.	スズメ科	⑰ スズメ	○		○	○		○
14.	セキレイ科	⑱ ハクセキレイ				○		○
15.	アトリ科	⑲ カワラヒワ				○		○
		⑳ シメ				○		○
					９科　11 種			14 科　17 種（＋㋝1 種）

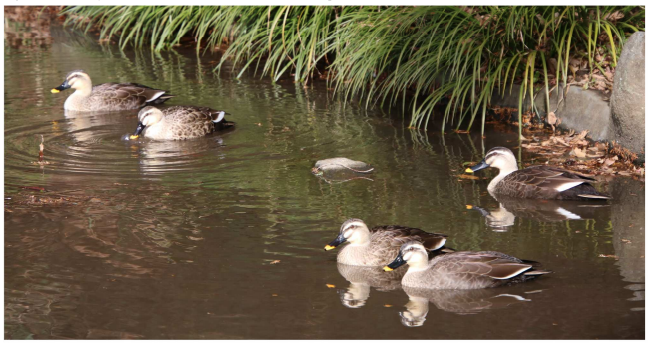
＊2021 年度：その他直視認/外来種：カワラバト

富士山とも出会える　西府崖線（ハケ）野鳥観察会

今回の野鳥観察会の参加のきっかけは、郷土の森物産館で会報誌を見つけたことでした。しかし、市川緑道とは聞いたことがなく、ネットと地図で調べることから始まり、どうやら散策したことのある谷保に続いていることがなんとなく理解できました。

知る人しか通らない小道へ

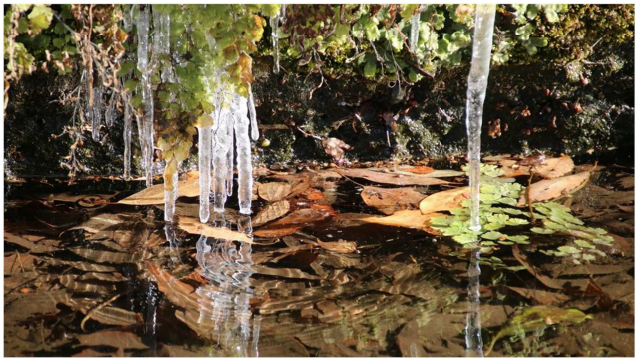
当日、JR南武線西府駅で初めて下車し、南口の歩道橋からは街が眼下に見え、これから行く西府崖線がここより標高が低いことがわかります。集合場所のあずま屋そばの水辺には、カルガモのグループがエサを探しているのか、近くに人がいても逃げていく様子はなく、これからの観察も期待ができそうです。



市川用水でくつろぐカルガモ

崖線は人家の裏を通っていて、知る人しか通らないと思われるような小道を入って行きます。染み出る水が凍って氷柱になっているところがあるかと思えば、手で触ると温かく感じる湧き水もあるような場所です。

この崖線にはいろいろな樹木がありネームプレートも設置されていますが、この季節、実や花をつけている木はなく、鳥たちは地面に落ちているものを必死に探すことに忙しいようで、ムクドリのグループとツグミが喧嘩かと思われる場面もあり、お腹が空いているのだろうと想像しました。



市川用水沿いの大岩から、いつもしみ出ている清水も氷る

ハケ上に出ると、突然、富士山！

その後もモズやジョウビタキを観察して、上板橋を渡りハケ上に出ると、突然富士山が見えるポイントで、大山道の先には丹沢方面の山々も見えます。

ハケ上の道は住人に怒られはしないかと思うような狭い小道を通り、シジュウカラの巣箱を見たり、上空のトビを見たり、ハケ下からと上からでは観察も異なります。ハケ上の方が視野が広がります。

木の間からスノーホワイトに光り輝く富士山

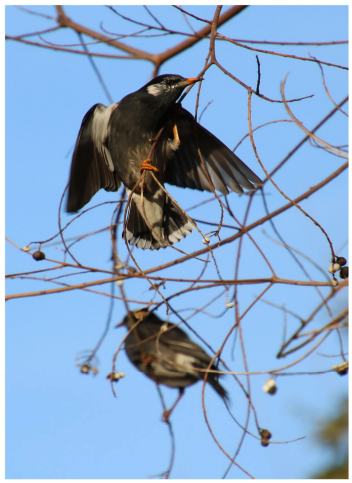
メジロオシ

メジロを見つけ行き先を目で追うと、メジロが二羽並んで留まってくれています。いわゆる目白押しの語源ですが、図鑑を調べると多数でとまることはなく通常二羽とのことですが、仲のいいカップルに見えて微笑ましい光景に喜びます。

メジロは、昔、郷土の森で梅の花に緑の鳥がいたので、友人とウグイスかなと会話していたのを見知らぬ人に聞かれ、目の周りが白いからメジロと教えてもらった鳥です。

図鑑を見ていると、メジロはJapanese White-eye、ヒヨドリBrown-eared、ムクドリWhite-cheeked、トビBlack Kite等、命名もなかなか興味深いものがあり、最近の私の楽しみにもなっています。

メジロオシ／仲がよい番（ツガイ）か



ムクドリ

西府崖線はオアシス

今回の西府崖線は、鳥たちにとっては生活の場、憩いの場ようで、野鳥観察にはゆっくり楽しめる場所で、まだまだ近場でも知らない場所があると認識した貴重な一日でした。　（一般参加者／鎌田ゆかり）

当日、3名の一般参加者にもマスク着用、体温チェック、手指消毒をお願いし、密も避けてコロナ対策をとりました。
☆日時／1月15日㈯ 9:00～11:20　天候晴　気温氷点下
☆参加者／会員8人　一般3人　　計11人
☆写真提供／牧原3枚、鎌田-メジロオシ、葛西-富士山
☆当日確認された野鳥
カルガモ、キジバト、トビ、モズ、オナガ、ハシボソガラス
ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ
ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ
シメ　外来種カワラバト　（17種＋外来種1）